

乳幼児の模倣と成長に関する研究

- 手作り日本人形を用いた保育の事例より -

東京福祉大学 駒井 美智子 (007078)

キーワード：模倣の合理性・乳幼児・情緒の安定

1. 研究目的

保育園児、とりわけ乳幼児が保育士の行動を「模倣」することは、自身を成長の方向へと導く。すなわち、保育士の行動が身近な「お手本」となり、社会で生きていくために必要な行動様式を学んでいくのである。本研究では、こうした保育園児の学習および行動、Casson[1]の指摘する「模倣の合理性」と対応づけて考えてみる。

幼い保育園児にとって、他人と触れ合う範囲が狭く限定されているため、両親以外の行動では、保育士の行動が「ベスト・プラクティス」[2]となる。保育士の行動が、最も優れたやり方（ベスト・プラクティス）となり、保育園児はこうしたベスト・プラクティスを模倣し成長していくのである。これを、ベンチマーキングの用語で表せば、**Learning the Best** [2]ということになり、保育園児にとっての「模倣の合理性」を指摘することができる。

2. 研究の視点および方法

本研究における調査は、 保育園 2 か所・Y 県 I 保育園・A 県 K 保育園 実施時期・2011 年 1 月 20 日～2 月 20 日（1 カ月） 実施時間帯・保育活動の自由保育時間 Am8:00～Am10:00 ・Pm4:00～Pm6:00 記録方法・保育者からのヒアリング・観察記録 本研究の目的および保育者のヒアリングの方法、観察記録、写真および得られた個人情報は本研究のみに利用し、情報の保護については説明し、協力の同意を得た。

保育園児にとって保育士の行動の模倣が合理的であること（模倣の合理性）は、前述の通りであり、そうであるとすれば、保育士は保育園児が模倣し易く、かつ筆者[3]の指摘する保育の三機能（興味性・幼児性・教育性）を満足するような「ベスト・プラクティス」を意識し、それを支援する教材を提示するようにすべきである。本研究では、こうした教材の一つとして、「手作りの日本人形」を指摘したい。もちろん、手作りの日本人形のみならず、それ以外の人形も優れた教材なのであるが、知らず知らずのうちに日本の文化を学んでいく教育性[3]をふまえ、ここでは日本人形に注目した議論を展開していくことにする。実際に「手作り日本人形」を作成して Y 県 I 保育園・A 県 K 保育園の観察に基づき報告をする。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学研究倫理指針に基づき、可能な限り原典主義による資料・文献を行った。また、調査に関しては、著名性や対象の名誉・プライバシーに配慮した。

4. 研究結果

「手作り日本人形」あそびの展開

事例1・Y県I保育園

- ・対象年齢 1歳児10名(1歳1か月～2歳9か月)
- ・乳児の様子・・・保育士の記録より。

朝のお集まりの際に、保育士が『お友達を連れてきたよ。』と人形を抱いて登場し、子どもたちに紹介する。保育士が『大事に仲良くしてあげてね。』と伝えると嬉しそうにならずき、その後コーナー遊びの中で遊び始めた。

手作りの「日本人形」を用いた保育の有効性

日常生活で、両親や保育士が自身(保育園児)を抱いたり、あやしたりする行動を見て、保育園児がそれを模倣しようとすることは、人間に対する優しさや思いやりを学習することにつながる。しかしながら、身体の小さい保育園児が両親や保育士と同様に他人を抱いたり、あやしたりすることは不可能である。そこで、人形を他人に見立てることで、両親や保育士の行動を模倣することが可能となる。これは、保育の三機能における興味性と幼児性を満足することを意味し、そういった意味で「模倣の合理性」を引き出すために適した教材となるのである。

一方、人形が「手作り」であることは、工業製品としての人形を抱くよりも、温かさを感じると同時に、自分でも作ってみたいという感情を引き出す可能性を秘めている。また、人形が「日本人形」であることは、前述のように、知らず知らずのうちに日本の文化を学んでいくという効果を生み出し、日本人としてのアイデンティティの形成へと保育園児を導く。これらは、「手作りの日本人形」を用いた保育が「合理的模倣」であると同時に、保育の三機能における教育性を意味するため、保育の三機能をすべて満足することになる。

以上のことから、乳児・幼児を抱いたりあやしたりする両親や保育士の行動(ベスト・プラクティス[2])を、保育園児が模倣(合理的模倣)する際に、「手作りの日本人形」が優れた教材となりうるということが理解されよう。

<参考文献>

- [1] Casson, M.: *Information and Organization; A New Perspective of the Theory of the Firm*, Oxford University Press, 1997(手塚公登, 井上正訳:『情報と組織』, アグネ承風社, 2002)。
- [2] ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部編:『ベンチマーキングの理論と実践』, ダイヤモンド社, 1995。
- [3] 駒井美智子:日本社会福祉学会第58回秋季大会発表,保育の非カリキュラム活動における「二重の自由度」と「三機能」との関係
- [4] 駒井美智子:日本保育学会第64回大会発表「保育士の情報共有と競争意識による活性化の事例研究 保育士研究会の研究」